

自立のための 3歩の住まい

PHARMA MODEL ROOM

県東部地域を中心に、産学官金が連携し、医療健康関連産業の振興と集積を目指す「ファルマバレープロジェクト」。その一環として超高齢社会の課題に対応すべく、「健康長寿・自立支援プロジェクト」を展開。20年先を見据えた高齢者の理想の住環境を提案するファルマモデルルーム「自立のための3歩の住まい」をファルマバレーセンターに開設しました。

超高齢社会の課題

4人に1人が65歳以上となった日本。本県も例外なく高齢化が加速しています。健康寿命を超え、平均寿命までの自立困難な約10年間をどのように過ごすのか、私たちは大きな課題に直面しています。

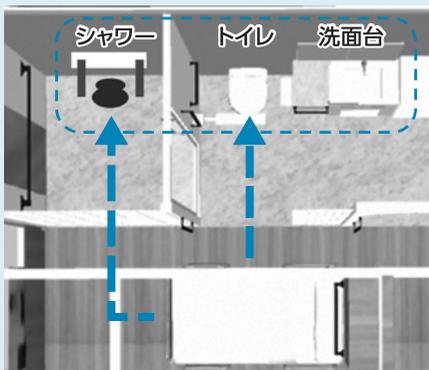
「健康長寿・自立支援プロジェクト」とは

高齢者が個人として尊重され、自分らしく暮らしていける社会の実現を目指すプロジェクトです。その取り組みの一つとして民間企業と連携し、「人生100年時代における高齢者のための住まいのあり方」を示すモデルルームを開設。可能な限り自立して暮らすことができる理想の住環境を追求しています。



特徴1 3歩から考える

●ベッドからシャワー、トイレや洗面台まで、「3歩」の範囲で身の回りのことができる、高齢者の移動の負担を軽減した空間設計です。



空間設計

動線をシンプルにし、快適な空間を実現。無理のない移動で、自立して日常生活を送ることができる間取り。

生活補助天井レール

医療介護に必要な工具箱の運搬や起き上がり補助具などに使える機能的なレールを天井に設置。

特徴2 医療介護部屋(感染症対策)

●日常生活の中で、手が触れるところを安心して使えるよう、新しい時代のスタンダードとなる素材を開発し採用しています。

床・壁・洗面台素材

「抗菌、抗ウイルス、消臭、抗アレルギー物質」の四つの機能を持つ新素材を採用。床には転倒時の衝撃吸収機能も付加。



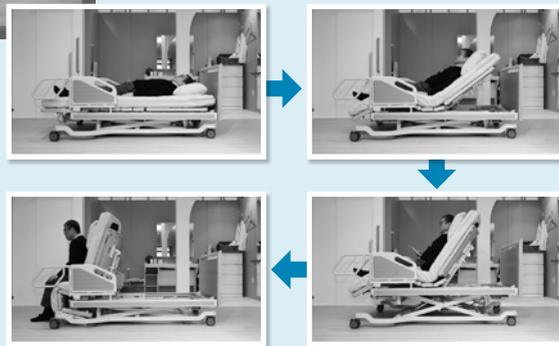
「自立のための3歩の住まい」4つの特徴

特徴3 ロボット化・AI化

●高齢者の歩行をサポートするロボット、立ち上がりを支援する電動ベッド、アプリと連動する見守り機能が搭載されたトイレなど、ロボットやAIを活用し、無理のない移動、行動、そして安全・安心な生活を支援します。

高機能ベッド

寝姿勢から立ち上がり姿勢まで四段階に変形する介護用電動ベッド。



特徴4 家族・社会との絆

●家族や知人と離れて暮らしていても、会話ができる「つながり」を実現し、外の世界とのコミュニケーションを持ち続けます。

高機能ディスプレイ

透明になるディスプレイにより、外の景色も取り入れながら、インターネットを通じ家族との連絡や、遠隔診療も可能。



歩行トレーニングロボット

ハンドルを押す力をAIが解析。最適な運動負荷による歩行トレーニングが可能。



このモデルルームは20年後の高齢者の住まいを、皆さまと一緒に考えるための共同研究室です。これまで見学した方からは「転倒を防ぐ機能の開発や良質な睡眠につながる機器や設備が必要」といったご意見を頂いています。今後も多くの方々に見ていただき、協力して新たな機能・製品・サービスのアイデアを生み出す場としたいと考えています。ぜひお越しください。

ファルマバレーセンター センター長 植田 勝智



ファルマバレープロジェクト中核支援機関
「ファルマバレーセンター」内

ファルマモデルルーム

- 所在地 駿東郡長泉町下長窪1002-1
- 見学可能日 平日①10時～②13時～③15時～
- 所要時間 約1時間(都合により短縮可)
- 定員 各回10人(無料)

見学の申し込み・問い合わせ ☎055(980)6333

動画でもモデルルームをご覧いただけます。住まいづくりの参考に!

